

会 議 録

1 会議名

令和4年度 第13回高田区地域協議会

2 報告（公開・非公開の別）

（1）地域独自の予算の事業一覧について（公開）

3 議題（公開・非公開の別）

（1）地域活性化の方向性について（公開）

（2）令和4年度地域協議会の活動計画について（公開）

4 その他（公開）

5 開催日時

令和5年2月27日（月）午後6時30分から午後8時17分まで

6 開催場所

福祉交流プラザ 第1会議室

7 傍聴人の数

1人

8 非公開の理由

なし

9 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：飯塚よし子、浦壁澄子、小川善司、北川 拓、佐藤三郎、澁市 徹（副会長）

杉本敏宏、高野恒男（副会長）、富田 晃、西山要耕、廣川正文

本城文夫（会長）、宮崎 陽、村田秀夫、茂原正美、吉田昌和（欠席4人）

・事務局：南部まちづくりセンター 滝澤センター長、小池係長、難波主任

10 発言の内容（要旨）

【小池係長】

・栗田委員、小嶋委員、松倉委員、松矢委員を除く16人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・同条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務めることを報告

【本城会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・会議録の確認：澁市副会長、小川委員

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【滝澤センター長】

- ・配布資料の確認
- ・次第に基づき、議題の確認

【本城会長】

- ・「議題等の確認」について質疑等を求めるがなし

— 次第3 報告（1）地域独自の予算の事業一覧について —

【本城会長】

次第3報告（1）地域独自の予算の事業一覧 に入る。

事務局より説明を求める。

【小池係長】

- ・当日配布資料No.1により説明
- ・3月議会での議決をもって予算化される。4月に補助金交付申請手続きを行い、市の補助事業として実施される見込み。各事業は目的別に市の予算に振り分けられて計上されるが、予算の執行は南部まちづくりセンターが担う。

【本城会長】

ただ今の説明について質疑を求める。

【茂原委員】

資料の右側に記載されている各課が担当課となり、対応するということか。予算の窓口は記載の課ということか。

次に、団体が実施主体になるとのこと。注書きにもあるが、記載されている団体が提案したという理解でよいか。

【小池係長】

地域独自の予算は、市の予算の各目的別のところに計上される。

資料の右側に「歳出科目」とあるが、例えば、一番上の事業では「文化振興企画費」という事業があり、その事業を所管している課が「文化振興課」ということになる。

その事業に地域独自の予算が補助金として計上されるが、実際の執行は、配当替えという手続きを経て、南部まちづくりセンターで執行することになる。

また、当日配布資料No.1の上部の※印に「提案団体が実施主体と同一の場合は、「提案団体」欄に「一」を記載している」とあり、提案団体と実施主体はすべて同じである。

【本城会長】

- ・他に質問等求めるがなし

以上で次第3報告（1）地域独自の予算の事業一覧を終了する。

— 次第4 議題（1）地域活性化の方向性について —

【本城会長】

次第3 議題（1）地域活性化の方向性について に入る。

2月20日に「地域活性化の方向性の作成に向けた高田区地域協議会学習会」を開催し、民生委員、地域包括支援センターの担当者から貴重な意見をいただいた。事務局より説明を求める。

【小池係長】

- ・当日配布資料No.2、No.3により説明

【本城会長】

先日の学習会の様子を、事務局が詳細にまとめた。

学習会を振り返っての感想や意見のある委員の発言を求める。

【西山委員】

一つ目に、この研修の主題は何だったのか。

案内が来た時は、「福祉について考える」というかたちで、福祉についての勉強会だと思った。

中身についてはごく一部の福祉と、高田ではなく、どこのところでも起きているような話であった。

そして質問をしても、地域包括支援センターの人も「把握していないため分かりません」と言うので、それであれば、もう少し専門的な人を呼んだ勉強会をしてもらいたかった。

また、民生委員と地域包括支援センターの人と一緒に勉強会をするのではなく、民生委員と地域包括支援センターの人を分けてやらなければ、皆、個人の意見だけであり、本当に必要なところが出てこなかったように思ったことが感想である。

また、当日も発言したが、地域包括支援センターや民生委員というと、どうしても高齢者の対応が主になってくると思うが、実際には。子どもや小学校、青年で働いていない等、高田区はそういった問題がすごくある。

実際に私も施設関係であり、妻も子ども関係の仕事をしているが、そういうことが全く出てきていなかった。

高齢者が高田区の問題だということには、いささか疑問点があった。

今後、本当に話をするのであれば、年齢の若い人という失礼であるが、そういう人の勉強もできて、そういった話も聞くことができ、高田区全体で福祉等、生活に関する問題点を話せるような場を設けてほしいと、単純に思った。

【本城会長】

今回、福祉のサイドから、このようなテーマをとり上げた。

専門的な分野のため、なかなか分かりにくい部分や、今、地域で起こっている高齢者を取り巻く環境、市街地の課題を含めた話をいただけたと思っている。

一つの参考にはなったと思うが、西山委員の発言にあったように、さらに専門的な立場でもう少し分析していくような話を聞くことができればよいとの話もあった。

今、自分たちがやっている学習会は、一つの学習であるため、あまり専門的なところまで深く入ることは難しいと思っている。

意見として伺っておきたいと思う。

【西山委員】

今回の話は全然、専門的な話ではない。

今ほど、本城会長は「専門的な勉強会」と言われたが、専門的な部分で話し合ったことはなかったと思っている。

例えば、「子どもの問題点は何ですか」と言って、その感想をいただくことに専門分野も何もない。

もう少し、きちんとしたいろいろな話が聞けるような勉強会にしてもらいたいと思う。

【本城会長】

私達の受けとめ方と、来た方々の受けとめ方との違いもあったのかもしれない。その辺を、わずかな時間の中でいろいろな意見交換とレジュメまで作っていただき、資料としても提供いただいたりしたことが、私達としては一つの学習だったと捉えている。

ここで何か結論を出すということではないので、参考として捉えてほしいと思っている。他に意見等あるか。

【飯塚委員】

私は、民生委員と地域包括支援センターの関わりというものを、今回の学習会でものすごく勉強させていただいたと思っている。

私は民生委員をしているが、民生委員はどうしても全部のところには関われないとか、立場上あまり詳しくは入れないため、地域包括支援センターへ相談するようになっているが、今回の勉強会で「地域包括支援センターはここまで考えている」ということが、すごくよく分かった。

個人的には、最初の一步から始めていく学習会であり、ちょうどよかったと思っている。

【本城会長】

事務局より、よくまとめていただき整理されているので、各自、改めて自己勉強してほしいと思う。

【富田委員】

私も昨年の12月から民生委員をしているが、前回の会議で自分がやるべきことがはっきりと自分に示された。

具体的に言うと、私はマンションに住んでいるが、そのマンションで二人の孤独死が出たので、マンションの管理組合でも、今後どうしていくのか、いろいろとやっている。

前回そういった課題が出たので、民生委員の立場として、そういうところに入っていろいろなことを実際にやっていきたいと思った。

民生委員は月に一回、定例会をしており、今日も認知症のサポート講座に出たが、本当に上越市はものすごく福祉が進んでいると思っている。

今度の定例会のときには、今回の高田区の勉強会の話をして「こういうところが課題として挙げられたが、どう考えるか」といったことを話したいと思っている。

【本城会長】

- ・他に意見等求めるがなし

次回の学習会の案について、事務局より説明を求める。

【小池係長】

- ・正副会長会議で話し合った次回学習会の案を説明。以前、子育て世代等を招く意見もあったが、年度替わりで困難なため、商店街の事業主等を招く学習会を4月17日（月）に行い、4月24日（月）に地域協議会を開催して振り返り等を行う。

【本城会長】

補足である。

私が考えていたことは、小学校区である。

高田区には、南本町小学校区、大町小学校区、大手町小学校区、東本町小学校区の四つの校区がある。

各エリアにいる事業者の方々、それも小さな中小企業、事業所、あるいは販売所のようなところの代表者から来ていただき、高田の商店街の低迷という課題も含めて、いろいろな角度で意見をいただくことができればよいと思っている。実はこういったことを、事務局と正副会長会議で協議した。

前回、前々回は、高田区在住の市議会議員、福祉関係者との学習会を行ったが、次は事業を経営されている実態を聞いてはどうかということで、その中から何か問題点が探れるのではないかという思いがある。

本日はそういったことを含めて、「もっとこういうことをしてはどうか」といった意見をいただくことが理想かと思っている。

今の説明も含めて意見のある委員の発言を求めたいと思う。

次回の学習会は、日程的には4月17日を考えているが、そこで招く方について、先ほどの西山委員からの指摘も含めて、十分な学習会になり得るような方を招いて、話を聞きたいと思っている。

委員から別の角度での話があれば、改めて正副会長と事務局で相談したいと思う。

意見等ある委員の発言を求める。

【西山委員】

主題が「子育て」なのか、「商店街の活性化」についての話をするのか、どちらか。本城会長の説明を聞くと、子どもや生活のことはどこかに飛んでいるように思う。

小学校がある四つのブロックの商店の人の話を聞くということであれば、子育てや生活は関係ないわけである。

【本城会長】

冒頭に事務局が説明したように、「子育て」のテーマは、4月が年度替わりでもあるので、順序を替えて、事業所を中心とした方がよいのではないかと考えている。

その次に、また「子育て世代」という課題もあるのだと思う。次の4月に予定する学習会は、事業者や経営者の苦勞を聞かせていただきたいと思っている。

あれもこれもとテーマをとり上げて、一緒にやることは無理があると思っている。そのため、ある程度絞り込むことを考えている。

【澁市副会長】

今、西山委員から話があったように、役員会の中でも、要するに将来を担う人達というのは若者だし、子ども達だということで、5月か6月になるか分からないが、別途それはやろうと、私個人の頭の中にある。役員会でまたそういうことを提案して議論していきたいと思う。

どうかたちで、そういう世代を代表する方に来ていただくか、その辺が非常に難しいところであるが、それについての知恵があれば、教えていただければ幸いである。

【本城会長】

何か意見等あるか。

【飯塚委員】

子育て世代の意見を聞くということであれば、民生委員の中に主任児童委員という方がいる。その方達がものすごくよく把握している。

学校に迎えは行ってないかもしれないが、送る時は一緒に行き、子ども達と触れ合っており、いろいろな話を聞いていると思うので、詳しいと思う。

【西山委員】

今回は「子育て」はしないということによいか。

【澁市副会長】

4月17日は対象外である。

【西山委員】

「子育て」ではなくて、「商店街の活性化」というと変だが、例えば、どうしたら南

本町や本町を今後盛り上げていけるのか、課題点はどういうところか、ということを知ることが次回の研修なのか。

【本城会長】

そういう予定でいる。

【西山委員】

大体そのような感じの研修会をしたいということか。

【本城会長】

そうである。

【澁市副会長】

多分それで終わるわけではない。

【小川委員】

これから学習会の相手と呼ぶにあたって、前回の方々もそうだったが、課題を中心に話していることが多いと思う。

課題は「人口減少」と「東京一極集中」であり、どこの町も同じ課題なのである。

それよりも、そういった課題を踏まえた上で、どういう取り組みや課題を解決して自分達が行動しているのか、その辺の話をしていただける方に、ぜひお願いしたいと思う。

【本城会長】

例えば、どういった方か。

【小川委員】

たくさんあると思う。全て説明した方がよいか。

【本城会長】

例えば、どういう方のことか。

【小川委員】

「空き家が増える」といったことは、一つの課題として分かりきっていることである。では、その空き家をどのようにして将来、この町が継続していくように取り組みをしていくのか、ということになると思う。

そうになると、例えば、大町五丁目が景観づくりをやっており、そういう中で人が引っ越して来ている。

この町に若い人が入ってきて、いろいろな仕事をしている。

企業の人から話を聞くとすると、企業の目的は利潤を上げることである。

そうではなくて、やはり、この地域が持続していく取組といった面から、実際に取組を実践している話を聞きたいと思う。

もう課題は皆、承知していることである。改めて聞いても「そうですよね」で終わってしまう。

【西山委員】

そういう意味では、小川委員の話のように課題点として、イオン等ができたことから、駐車場の話等が出てくることは大体分かっている。

それよりも、例えば、本町や南本町の商店街の個々のお店が一人一人意見を言っても限界があると思うので、商店街自体が、今後、本当に商店街として残していく、そして少しでも人から来てもらうような発展をしてもらうための取組を、個々ではなく商店街として、今後どのように取り組んでいくのか等、将来の展望のようなことも聞いてみたいと思う。

できることであれば、そのような話を聞くことができればよいと思う。

【本城会長】

私達もそういったことを考えて提案している。ただ、これからどのように絞り込んでいくのか、委員の期待に応えられるよう、商店街の発展性を持った活動を行っている人ということで、また委員からもいろいろと話を聞かせていただきながら、人選をしていきたいと思っている。

正副会長としても、次は4月なので、なるべく急いで人選を進めたいと思っている。

日程が決まっているので、本日提案したような内容で次回の学習会をセッティングしたいと思っている。

【小川委員】

商店街と言って、ふと思ったが、商店街の活性化といってもプレミアム商品券といった話ではない。当然それは利益を求める活動である。

第1期と第2期で地域協議会委員をしていたAさんが、お馬出し塾、お馬出しプロジェクト等、そういった文化面で人を巻き込んだ活動をしている。また、百年商店街というものもやっている。

やはり、そういう方向性から話ができる人をお願いしたいと思っている。

【本城会長】

今ほど、小川委員の発言にあったようなことも含めて、私達は考えていた。

高田の老舗商店が、これから生き残りをかけて、どのようにして発展をさせるのか。また、郊外型に集客をとられた小さな商店が、南本町もそうだが、後継者がいないということがある。そういった中で、どれだけ頑張れるのか。

プレミアム商品券の話は、行政が政策的にどうやってやるのか、ということがあってもよいと思うが、これまでは毎年、プレミアム商品券事業を行ってきたが、今回の新年度予算の中には入っていない。そのため、商店街を含めてかなり深刻なテーマが出てくるかもしれない。だが、それは地域協議会が行政に何か要望をする、といったこととは違う。

そこは行政の責任として、市議会の課題として、とり上げていただくこともあるだろうと思っている。その話は切り離したいと思っている。

【富田委員】

私は、学校の教職員の人達といろいろと話がしたいと思っている。

具体的に言うと、現在、上越教育大学附属中学校の1年生が126万円を貯めるためにクラウドファンディングを行っている。

なぜかというと、本町三、四、五丁目商店街の活性化、買い物客がたくさん来るように、ということで、子ども達が何人でやっているのかは分からないが、明日が締切りである。現在、137人の協賛を得て、115万円ほどが集まっている。

今、学校の先生達が、社会教育というのか、そういうことでいろいろとやっているのであろうかと思う。

だから、そういう学校の先生達と、何か子供の教育ということではないが、何かそういうところも聞くことができればと思っている。

【西山委員】

今は「このようなことをやってもらいたい」ということを聞いているのか。

4月17日の学習会の商店街とは、まったく別の話か。

【本城会長】

フリートークで意見として聞いている。

【西山委員】

それであれば、聞いてみたいことは、地域の子ども、青年に対する活動というか、例えば、マミーズネット、上越おやこ劇場等に関わっている、そういう活動をしてい

る人の話も聞きたい。

また、送迎サービス等、いろいろとあると思うが、そういう子どもや、どちらかという、少し若めの人に対して活動をしているような人達の、この前の高齢者とは逆になるが、そういう人達の活動や問題点等も聞ける会を、一回くらいはやってほしいと思う。

【本城会長】

それは「子育て世代」のところで参考にしたいと思っている。

【西山委員】

民生委員等から話を聞くのではなく、実際に現場に入っている人達から「何に苦勞をしているのか」等、役所的な人等の意見ではなく、本当に現場で働いている人の意見を聞けるような会にしてもらいたいと思う。

【小川委員】

西山委員がマミーズネットといった具体例を出されたが、活動をそれぞれ活発化させるためには経済活動もあるが、社会活動や文化活動等の方で、もっと住民の意欲をかき立てるような活動というか、それが地域を維持していく、発展させていくという活性化に繋がっていくと思う。

【本城会長】

本日いただいた意見も参考に、来月の正副会長会議では次回の学習会に招く方を含めて、準備を進めていきたいと思う。相手方と調整の上、案内したいと思う。

以上で次第4 議題（1）地域活性化の方向性について を終了する。

— 次第4 議題（2）令和4年度地域協議会の活動計画について —

【本城会長】

次第4 議題（2）令和4年度地域協議会の活動計画について に入る。

澁市副会長より説明願う。

【澁市副会長】

・資料No.1により説明

【本城会長】

・ただ今の説明に質疑を求めるがなし。

以上で次第4 議題（2）令和4年度地域協議会の活動計画について を終了する。

— 次第5 その他 —

【本城会長】

次第5 その他 に入る。

前回の会議後半では、フリートークのかたちの中で意見をいただいた。

いただいた意見を整理したので、事務局より説明願う。

【小池係長】

- ・資料No.2により説明

【本城会長】

事務局はよくまとめていただいた。

一つ言えることは、「地域活性化の方向性」については、市の取組みの企画の参考とする考え方ということ。要するに、これが市の一貫した考え方なのである。

杉本委員も言っているように、地域活性化の課題、地域協議会の性格が変わっていくのか、どういうふうに自分達が議論していけばいいのか、ということは、なかなか私自身もよく見えてこない。

市がどういう考え方でこれから、地域協議会の地域活性化の課題を捉えていこうとしているのか。資料に文字で残っているが、全て「市の取組の企画の参考にする」、「参考なのだ」ということであるので、それ以上はなかなか突っ込んで議論したところで「それは参考だ」という、とり上げるのか否かは、市長の裁量だというようなことになるのだと思う。市長の政策の中に生かしていくのだと私は期待をしているわけだが、その辺はまだ市の方針としては曖昧なところがあるのではないかと思っている。

地域協議会の議論は「市の取組の企画の参考」なのだというのが、一貫している。そのため建設的な議論をしていっても、それがどこまで事務局を通じて行政に反映されていくのか、ここは地域協議会の悩みどころでもあるのかと思っている。

これは高田区地域協議会ばかりではなく、他区の地域協議会も同じ課題だと思う。

とにかく、あくまでも地域協議会の議論は「企画の参考」であり、とり上げるのか否かはもう、だから、そういう意味で捉えている。

意見等ある委員の発言を求める。

【浦壁委員】

「地域活性化の方向性」の問題そのものについては、本当に間口も広く、私達で簡単に何かできるようなことではなく、底も深く大きな問題だと思うので、皆でいろいろな角度から話し合うことはよいと思う。

ただ、私はここではっきりと、多少、誤解されているようなものがあるので、私の意見の学習会のことであるが、先週は民生委員からの話を聞く学習会であった。私はほとんど99%くらいこの会に出席している。初めて聞いた。こういうふうな会をやるということ。だから、これはどこで、いつ決まったのか、その点についてお聞きしたいと思った。

この本城会長の回答では、「地域協議会で案を諮り、合意をいただいていると認識している」と、これは一体どういうことか。私はおかしいと思う。初めて聞いた。

【本城会長】

初めてということはない。

事務局、浦壁委員は欠席されていたのではなかったか。

【浦壁委員】

私はほとんど出席している。

【本城会長】

民生委員等との話は、この会議で委員の合意を得たと思う。

皆で決めたことである。

浦壁委員は「聞いていない」と言うが、それは欠席されたのかどうかの問題である。

【小池係長】

確認したところ、12月19日の第11回地域協議会において、11月28日に行った高田区在住の市議会議員を招いての学習会についての振り返りを行った。

その後、次の展開として福祉関係の方から意見を聞く機会を設けることになった。その後、子育て世代や商店の事業者から意見を聞く機会を設けることも検討することになったが、この時点においては、次の展開として「福祉関係の方から意見を聞く機会を設ける」こととして、それが民生委員との学習会に繋がったということである。

具体的に、民生委員との学習会について提案されたのは前回の地域協議会である。前回会議の「地域活性化の方向性」の場面で、正副会長会議で協議をした結果、「地域活性化の方向性」の作成に向けて、高田区担当の民生委員と地域包括支援センターの

担当者を招いての学習会を開くことを提案、説明し、前回の会議で承諾をいただいた、という流れになる。

【澁市副会長】

1月の地域協議会ということである。

【本城会長】

その会議に浦壁委員は出席しているのか。

【小池係長】

出席している。

【浦壁委員】

それはこの場で採決をとったのか。

ただ雑談というか、そういう話が出た、というだけではなかったか。

と言うのも、私は民生委員から話を聞くということの、そういうふうなところで「いかがでしょうか」という意見を求められた記憶はないと思う。

その時に私は、わざわざ民生委員から学習会に来ていただき、貴重な時間をそういうことで使うこと自体、活性化とどういう関係があるのか、すごく考えていた。

こういう場で採決をとるくらいのもの。皆の合意ということは。「こういうふうなことがある」ということを話の流れで言ったのでは、地域協議会での合意にはならないと思う。

貴重な会であるため、きちんと皆に分かるようにして、このような学習会をすべきではないか。

【小池係長】

前回の地域協議会の中で正副会長案ということで、民生委員と地域包括支援センターの担当者を招いた学習会について提案をした。

そこで挙手等の決はとっていないが、本城会長から「この案のとおり、進めることでよいか」と諮り、そこで了承が得られた。

【宮崎委員】

私は「一人では駄目で、複数人を呼んだ方がよい」と発言したと思う。

【小川委員】

問題は、来ていただいた方にただ課題を聞くのではなく、その人達がどのようにしてその活動を、みんなで一緒になって活発化させているのかというところが話の内容

になれば、ただ「問題はこうだ」「課題はこうだ」と言われても、参考にならない。

例えば、民生委員が10人、20人と集まって、「このような活動をやっており、この地域が活発になっている」という話があれば、もっと皆、参加すればよいのではないか、ということになると思う。

【本城会長】

そのために、第1ブロック・第2ブロック・第3ブロックの各ブロックの代表の方から来ていただいた。

そのため、ある程度、各地域を掌握された人達だと受けとめた。

個々の民生委員に皆、声をかけたわけではなく、各支部の三人の代表者に来ていただいた。

【小川委員】

各支部の代表者ということはよく分かった。

ただ、それぞれの代表者が代表になって何か活動をしているのか、というところが、本当は聞きたい。

「今度は経済界から」との提案があったため、1人思いついたのであるが、Bさんと呼んではどうか。

【西山委員】

質問の内容を変えてもよいか。

【本城会長】

今の浦壁委員の話に関して、よく納得されないと不信が残る。

【西山委員】

皆で決めたことだと思う。それ以外にない。

【本城会長】

まだ、浦壁委員が納得していないようである。

他の委員が言うように、皆の合意をいただいたと思っている。

浦壁委員が当日、出席されたとすれば、そういった意見があってもよかったと思う。

【浦壁委員】

地域協議会は、皆で意見を出してその中から作り上げていく、そういうふうな会議にしなければ、いつもどこかで決まったこと何かを一方向的に報告されて、私は先週の民生委員の会そのものが本当におかしいと思っている。

【本城会長】

失礼だが、勝手に進めているわけではない。正副会長会議で皆の意見をまとめながら整理をして、事務局と協議をしながら委員に提案等している。

これ以上、何かやり方、勝手に私達が進めているということではない。合意の下で進めている。

ただ、最悪の場合、多数決をとることは「あり」だと思う。

もしそうだとすれば、その時に意見をいただくことができれば、私達もいろいろと配慮することはあったかもしれない。

当日の会議に出席した委員は、議長の進行について合意をいただいているということと理解されていると思う。

浦壁委員の発言は、地域協議会の議論の仕方や地域協議会委員のあり方の課題のような話をしている。

私はルールどおりに進め、委員の意見も十分に聞いていると思う。

また、早い時間で終わるのであれば、皆の意見を聞くということで、本日もそうだが、そのようなやり方をしている。

私の議事進行が悪いのであれば、お詫びする。

【富田委員】

宮崎委員から意見があって、一人ではなく、複数人でなければ駄目だ、と宮崎委員はものすごく突っ込んで言っていた。浦壁委員はそれを覚えていないか。

【本城会長】

確かにその時、宮崎委員から意見をいただいた。

民生委員も三人お呼びし、地域包括支援センターも二つの機関から来ていただいた。

そういったことで、浦壁委員より理解をいただくことができればと思う。

議論が違うところにいってしまうとよくない。

・この話はそのように整理してよいかを諮り、委員の承諾を得る

次に西山委員の発言を求める。

【西山委員】

事務局に質問する。

地域の活性化に向けた勉強会については、結局、答えは出さなくてよいということ
でよいか。

高田区地域協議会で、これから高田地区が活性化していくためには、大きく分けて、例えば、二つ、三つくらいに絞って進めていってもらいたい、といった答えは出さなくてよいのか。

【滝澤センター長】

5月頃だったか、「地域活性化の方向性」の作成の依頼をさせていただいた。この間、少し時間が空いたため、忘れていた委員もいるかもしれないが、大きなタイトルの「スローガン」と「構成要素」を作っていただくことが今の最終的な目標である。

【西山委員】

この資料の市の職員の回答を見ると、基本的には、こういった勉強会を行って、いろいろな意見を出し、それを市の職員が聞いて共有し、それをいろいろな政策や何かに役立てていく。それが市の目的であって、それが本来であれば地域協議会が自主的審議等をおこなって議論することと同じ役割を担っていて、そして、一つ一つの答えを出して、どんどんと吸い上げてもらえばよいだけであるので、そこまでまとめたら、それを事務局でやってくれるのか。

まとめたら、意見を吸い上げるだけということであれば、こういう会議はすごく有効だと思うが、「誰がやるのか」と思う。吉田委員の意見ではないが、将来的には南部まちづくりセンターが責任を持って、自治・地域振興課が責任を持ってやっていってくれるということが前提で、今こういう会議をしているのか。

【滝澤センター長】

今一度、振り返って説明する。

我々は事務局という立場で学習会に出席している。

「地域活性化の方向性」の作り方として、高田区のように「地域の意見等を聞く」というやり方を行っている地域協議会と、地域の意見等は聞かずに、地域協議会委員限りで作成している区がある。

今の西山委員の発言は、学習会等で聞いたものを、「地域活性化の方向性」にまとまらないことも含めて、市として汲みとってくれるのか、という質問だったかと思うが、そのようなことはしない。

基本的に、「市の取組の参考とする」というものは、「地域活性化の方向性」として、まとめていただいたものに対してである。

ただ、文字としてそこに出てこない部分があるかもしれないが、いわゆる背景とし

て、学習会で聞いたものを我々は情報としては持っているので、それは参考にできるかとは思っている。

【西山委員】

共通認識を持つことが用途であると、事務局による補足で多く記載されている。

こういう会議や勉強会を行って、委員からもそうだし、一般の市民の方からも来て、いろいろな意見をいただいたものを、市と我々が共通認識を持って、今後、各課に働きかけをする等が目的なのかと思った。はっきり言って高田の問題点をここで浮き彫りにして、ネタ出しを行っている段階なのかと思った。自主的審議事項は、もう時間的に無理。

【本城会長】

西山委員、資料No.2の2/3頁の右側に「正副会長と事務局の考え」というところに、「学習会で得た意見や知見を踏まえ、地域協議会としての考えを協議しながら『地域活性化の方向性』を作成する」とある。

13区のように総合事務所があるところは、もう既に活性化の方向性が完成しているところもあるが、いわば、スローガンのように四つか五つくらいの項目で構成されているだけなのである。その程度のものが我々に求められて、要約したものをスローガンのようにまとめるということしかないのかと思う。

論文を書くようなことは求められていないのである。

だから、既に我々に配布された13区のうちのいくつかの「地域活性化の方向性」は、ほんの五か条のような、柱、スローガンとなっている。

だから、その程度のことしか求められていない。あとはそれを事務局がどう行政の企画の中に取り込んでいくのかという、今度は行政の責任になるということで、我々は受けとめてよいと思う。

【西山委員】

基本的には、高田区地域協議会で四つか五つくらい出たものが、一つもとり込まれなくても、それはOKということ。

それは、市がとり入れるか、とり入れないか分からないので、委員が議論することは無駄ではないが、反映はされないという。

【本城会長】

そのとおりである。

最後はやはり、市長の政策判断ということになる。

【富田委員】

私は先ほども言ったが、民生委員として勉強になったので、今後の具体的なアクションに結び付けることができる、という意識になった。そういうメリットもある。

全部が全部を行政に伝えるようなことでなくても、ここにいる委員は、いろいろなことに関わりを持っていると思うので、そういう中で応用できるものがあると思う。

そういったように利用してもよいのではないかと思う。

資料は非常によくまとまっているので、これを出してもよいのではないかと思う。

【本城会長】

予定の時間が超過している、他に何か意見等あるか。

【茂原委員】

私の意見が資料No.2の2頁目に記載されている。

これだけを取り出して整理されて、非常に迷惑している。これが、まず一点。

それと、この資料で「質問、意見」に対応して「回答」が出ており、中に「事務局による補足」が書いてあるが、事務局が補足説明する立場にあるのか、疑問である。

事務局ではなく、まちづくりセンターの行政の立場で言われるのであれば分かる。だが、事務局としてこのようなことをいう立場なのかと疑問を持っている。

事務局とまちづくりセンターというか、行政の出先機関とごっちゃにした立場で話をしているように見受けられるので、その辺は整理すべきだと思っている。

【本城会長】

事務局はあくまでも行政の立場であり、上越市の立場で対応しているわけである。

【茂原委員】

それは分かるが、話の仕方として、出す以上、その辺ははっきりとしていただきたいということが、私の意見である。

ただ、「報告します」と決まったようになってしまうから、結果的に問題であると考えている。

【本城会長】

意見として伺う。

・資料の「正副会長と事務局の考え」のとおり進めることとしてよいかを諮り、委員の承諾を得る。

そのように今後の会議につなげていきたいと思う。

以上で次第5 その他 を終了する。

― 次第6 事務連絡 ―

【本城会長】

次第6 事務連絡 に入る。

事務局より説明を求める。

【滝澤センター長】

- ・今後の地域協議会等の日程連絡

学習会：4月17日（月）18：30から 福祉交流プラザ

※先方と調整の上、改めて案内する

次回地域協議会：4月24日（月）18：30から 福祉交流プラザ

- ・配布資料：浦川原区地域協議会の意見書
- ・小川委員から配布依頼：警女ミュージアム 特別無料券

「つぎつぎ」（冊子）

- ・南部まちづくりセンターの移転について

【富田委員】

資料No.2の3ページにも記載されているが、「若者による町家のリノベート」が新たに出てきているということを説明したが、以前にも説明に来られたCさんがやっている仲町6丁目の町家で、3月4日の午後5時半から午後8時まで、飲み物は各自持参で、「空き家、空き町家について考えましょう」という内容の催しがあり、案内が来ている。結構、若者がたくさん集まると思う。そういう場でも議論していただければと思うので、紹介する。

【西山委員】

南部まちづくりセンターの移転は今年なのか、来年なのか。

【滝澤センター長】

新年度、4月からになる。

【西山委員】

FM上越が入っていたところの上にも会議室があると思うが、基本的には会議はこ

こでずっとやるのか。それはまだ分からないのか。

【滝澤センター長】

当初、高田区地域協議会はオーレンプラザで開催していたが、コロナ禍の状況を踏まえて、現在の福祉交流プラザで開催をしている。

また、雁木通りプラザの会議室について検討した時に、地下駐車場に時間制限があり、また、狭いという事情があり、委員が来る際、少し運転の面等で負担ではないかと考えている。

そのため、基本的には今の会場で開催したいと思っており、コロナ禍が落ち着いた際には、またオーレンプラザに戻るのかも考えたいと思っている。

【本城会長】

- ・全体を通して質問等を求めるがなし
- ・会議の閉会を宣言

1 1 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL: 0 2 5-5 2 2-8 8 3 1 (直通)

E-mail: nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

1 2 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。